

■程順則 近世琉球の儒学者。“名護聖人”。中国で版行した「六論衍義」が室鳩巢和訳で全国寺子屋教科書に。

ていじゅんそく

殉死禁止・・・1663＝ 琉球国那覇出身ながら王命で中国人居留区久米村に入った程泰祚の長男に生まれる。

酒井忠清大老1666＝ 3歳：

東西海運確立1672＝ 9歳：

三井越後屋・1673＝10歳：この年、父が進貢通事となって中国福州に赴き、到着寸前海賊に襲われて重傷を負うも、
・・・1674＝11歳：この年、無事北京に到着して、皇帝にも謁見したが、帰路、蘇州で明の旧勢力の騒乱を避けているうち、
談林派俳諧・1675＝12歳：この年、父が中国で病氣となり客死。

父の従兄弟に当たる久米村の代表的学者で、国王世子の侍講でもあった鄭弘良大嶺親方について学び、

徳川綱吉將軍1680＝17歳：

護国寺・・・1681＝18歳：

八百屋お七・1683＝20歳： 通事(通訳)として清(中国)に渡り、

堀田正俊暗殺1684＝21歳： 福州で儒学者陳元輔に師事し、朱子学と詩文を学んで、

生類憐令始・1687＝24歳： 帰国。講解師に任命された後、再び通事となって、福州に渡り、

奥の細道・・・1689＝26歳： 帰国し、自費で購入した「十七史」1592巻を孔子廟に収める。

湯島聖堂・・・1690＝27歳：

生類憐令頂点1695＝32歳：

重秀勘定奉行1696＝33歳： 北京大筆者となって、正議大夫を務める師大嶺親方とともに、福州に渡り、
・・・1697＝34歳： *北京で朝貢朝見を終え、帰路、蘇州で父の墓参りをし、福州で詩集「雪堂燕遊草」を刊行して、帰国。

・・・1699＝36歳：

この間、中国の詩人に強力に働きかけてきたためか、

御蔭参流行・1705＝42歳： 中国で刊行された朝鮮・安南も含む空前絶後の欽定詩集「皇清詩選」に、琉球の詩人多数が採られる。

・・・1706＝43歳： 進貢正議大夫となって、福州に渡り、

富士宝永噴火1707＝44歳： 北京に向かう途中、孔子の墓に立ち寄り、「琉球廟学紀略」を献納。この時入手した楷の杯を、のちに、近衛家熙に贈呈。

シヅメの拘束・1708＝45歳： *明の太祖聖諭を解説した「六論衍義辨」と「指南広義」を中国で刊行し、帰国後、知友に配布した。

徳川綱吉没・1709＝46歳：

絵島事件・・・1714＝51歳： 將軍宛の国王の手紙を運ぶ掌翰使として江戸に上り、新井白石と会見、文面批判を受けるも言い訳せず、逆に、白石の「南島志」に影響を与える。

徳川吉宗將軍1716＝53歳：

隅田川の桜・1717＝54歳：

御蔭参流行・1718＝55歳： 久米村総役となり、久米村に明倫堂を創建。

小石川薬園・1721＝58歳： *「皇清詩選」を多数購入し、首里城書院や孔子廟に寄贈、残部は師友に送る。この年、「六論衍義辨」が島津吉貴の手を経て幕府に献じられ、將軍吉宗の命で、荻生徂徠が訓点し、室鳩巢が「六論衍義辨」を和訳、寺小屋教育の教科書「官刻六論衍義大意」として刊行され、全国に流布する。

・・・1725＝62歳： 「皇清詩選」を中心に増補した「中国詩文集」を刊行、

懐徳堂公認・1726＝63歳：

三司官座敷を経て、

荻生徂徠没・1728＝65歳： 名護間切総地頭に昇進。

儒者として一生を貫き、世人に“名護聖人”と尊敬されて、

享保大飢饉・1732＝69歳：

・・・1734＝71歳： 没した。